



園長だより



6月には2週間半ほどフィリピンに行く機会がありました。日本から牧師や、教会の方が50名ほど参加され、2週間の講演会をフィリピンのミンドロ島の50か所で行うという企画でした。友好的で温かいフィリピンの人々に迎えられて過ごすことができ、また、現地の教会のお手伝いをすることができました。

しかし、異文化での生活には慣れないこともありました。日本人であれば、一声断りを入れてから行うようなことを何も言わずにしたり、時間の感覚が違ったり（次に何時にどこに行くかがあまり知らされずに困ってしまったこともありました）、言葉が通じにくかったりなど。しかし、こちらが正しく、あちらが間違っている、ということではなく、向こうの人にとっては、当たり前のように、最大限に私たちを歓迎をしてくださっており、悪気はなかったのです。

私たちはこのように、自分と考え方の違う人、生き方の違う人、違う文化の人などと接するときには、どのように対応するかが問われています。しばしば、私たちの当たり前は彼らの当たり前ではない場合があります。そして、それを受け入れられずにイライラしたり、怒ったり、時には軽蔑したり、差別してしまうことがあるかもしれません。

コミュニケーションでは、伝えているつもりでも、伝わっていない時があります。あるいは、間違って伝わってしまう場合もあります。なぜなら、私たちのコミュニケーションは自分の意図、感情、物事の認識、考え方、文化などに影響されており、相手も同じように意図、感情、物事の認識、考え方、文化などに影響されながらそのコミュニケーションを受け取るからです。

相手にきちんと伝わっているかを確認するには、いくつかの方法がありますが、最も簡単な方法は、言われたことを（オウム返しではなく）自分の言葉で言い換える（あるいは意識する）ことです。例えば妻が（あるいは夫?）が「いつもあなたが靴下を脱ぎっぱなしにすると本当に頭にくるの!」と言ったら「そうか、自分が靴下を脱いだままにすると、イライラさせてしまうんだね」と返すのです。そうすると、話しているほうは聞いてくれていると感じることができ、聞いているほうは相手の伝えようとしている内容を確認できるのです。

もう一つの方法として相手の感情をチェックするという方法があります。これは、話相手が心の中で感じていることを確認することです。例えば、家族の方が「最近、家に帰ったら何もする気が起きないの」と言ったら、「少し落ち込んでるの?」あるいは「悲しい気持ちになってるの?」などと、相手の感じていることを推測し、聞くことができます。もう一つの例としては、「この間の話し合いの時の〇〇さんのやり方って汚いよね。」と誰かが言ったとしましょう。「イライラしているの?」「あの人に失望してるの?」などと、相手の感じていることを聞くことができます。

ほかにもコミュニケーションを上達させる方法がいっぱいありますが、またの機会に紹介させていただきたいと思います。相手のことを理解し、受け入れることができる柔和で寛容な心が欲しいですね。これからも暑い夏が続きますが、お元気でお過ごしください。

2017年7月27日

石川三育保育園 園長 ミラージュエル